アドバイザリー委員会による外部評価実施結果について

お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム
「ジェンダー研究のフロンティア」
拠点リーダー　戒能民江

2005 年 4 月 29 日

1. はじめに

F-GENS では、2005 年 3 月 15 日～18 日、アドバイザリー委員会による外部評価を実施した。委員は、広渡清吾教授（東京大学）、江原由美子教授（東京都立大学）、タニ・バーロウ教授（ワシントン大学）の 3 名である。広渡委員には主に研究教育体制について、江原委員には主にジェンダー研究教育の観点から、バーロウ委員には主に国際的なジェンダー研究教育の視点からの評価をお願いした。短期間での評価作業にもかかわらず、委員には熱心に取り組んでいただき、評価事項のすべてにわたって、率直かつ厳しい批判と建設的な助言・提言をいただいた。評価結果を踏まえて事業計画の見直しを行い、不十分ながら拠点形成事業を改善することができた。今後さらに提言を活かしてプログラムの改善を進めていきたい。アドバイザリー委員のみなさまに心から御礼を申し上げます。

1-1 外部評価のスケジュール

3 月 15 日	● 拠点リーダーによる概要説明
	● 事業推進担当者からの説明
	● 委員と事業推進担当者との質疑応答
3 月 16 日	● 若手研究者へのヒアリング
	● ポスターセッション資料の展示見学
3 月 17 日	● 評価報告書の執筆
3 月 18 日	● 評価報告書についての拠点リーダー等との質疑応答

＊なお、外部評価にあたっては、事前に F-GENS から中間報告書をアドバイザリー委員に提出した（別添参照）。

1-2 評価事項

＊ 研究プロジェクトの進捗状況
＊ 各研究プロジェクト間、学内外研究者との有機的連携・協力について
＊ 若手支援、人材育成について

＊　情報発信と成果発信について
＊　国際競争力について
＊　プログラム終了後の大学の拠点形成計画について

2. アドバイザリー委員による報告書概要

各アドバイザリー委員から提出された評価報告書について、ここでは、3 人の委員から共通して指摘された F-GENS の問題点と提言点にしぼって紹介する。

2-1 各プロジェクト研究の有機的連携

F-GENS 内部の有機的連携が不十分であり、見えにくい。この点は本プログラム採択時に「21 世紀 COE プログラム委員会」から「留意事項」として指摘されていた点であり、その指摘を受けて、連携研究「アジア認識とジェンダー」プロジェクトを設置した経緯がある。しかし、その効果が十分発揮されておらず、プログラムの求心力が弱い。拠点形成の目的を明確にし、その実現をめざした事業計画を立てるとともに、ジェンダー研究のフロンティアを切りひらく理論的集約と総括の中心となる「統括型プロジェクト」を設置すべきである。

2-2 次世代研究者の育成

次世代ジェンダー研究者の育成が必ずしも適切に進められていない。COE 研究員雇用のあり方では、「研修」、「研究」、「労働」のバランスを考慮し、各場面におけるルールを明確化すべきである。拠点形成にとって研究開発および蓄積と並んで重要なのが、人材育成・若手支援である。COE 研究員の雇用、公募研究、研究への主体的参画の奨励など評価できる部分は多いが、より積極的に、研究者としての安定した地位と経済条件を一定期間保障するポスドク研究員雇用を強化すべきである。

また、意思決定機関である事務局会議に若手研究者の陪席システムをつくったらどうか。教員と院生との情報の流れを円滑化し、若手研究者の研究者としてのプロフェッショナルな感性を高めることができる。

2-3 COE 終了後の展望を踏まえた事業計画の重要性

COE プログラム終了後の大学における研究教育拠点形成の展望を明確にする必要がある。本事業の目的は、アジアのジェンダー研究教育の学術拠点としての発展の基礎と条件の形成にある。今後3年間は、プログラム終了後を見据えて、よりターゲット志向的な事業計画のもとで事業を推進していくとともに、これまでの成果を継続・維持するための方策にも留意すべきである。その場合、どの分野に重点を置くのか、長期的な意義を考慮したうえでの検討が必要である。さらに重要なことは、単に研究成果を蓄積するだけではなく、ジェンダー研究の意義と重要性を国内外に広く主張していくことである。

具体的な提言としては以下の諸点が挙げられた。

＊ 集積されたデータを世界の研究者が利用できるものとするシステムの開発
＊ F-GENS ジャーナルのレフリー制英文学術雑誌化
＊ アジアの諸機関との制度的連携の拡大
＊ 次世代研究者への人的投資の拡大と明確な目的のもとでの人材養成の推進
＊ お茶の水女子大学におけるアジアにおけるジェンダー研究拠点の役割と位置の明確化
＊ COE 期間中にポスドクフェローシップを設置し、COE 終了後にジェンダー研究センターと大学院にジェンダー研究の専任ポストを設置するためのシードマネーとする。

2-4 大学における将来計画の必要性

本COE事業により形成される資産をもって、「拠点」が新たに自立的発展を遂げていくためには、大学の支援が不可欠である。大学としてのコミットメントの実現について将来構想の検討が求められる。本事業推進の中核組織であるジェンダー研究センターを「国際ジェンダー研究センター」として抜本的に改組・拡充するなど、グローバルなジェンダー研究教育のアジアにおける学術拠点にふさわしい大学の将来構想が期待される。

3. アドバイザリー委員会の評価結果に基づく、F-GENS の改善点

アドバイザリー委員会による外部評価結果について、各プロジェクトでの検討を踏まえて事務局会議および全体会議で検討し、今年度は、以下のようなプログラム改善を行なうことになった。

3-1 統括プロジェクト「ジェンダー研究と〈アジア〉」の設置

各プロジェクト間の有機的連携を強化し、研究の統合性を高めていくために、研究の集約と理論的総括の中心となる、統括プロジェクト「ジェンダー研究と〈アジア〉」を設置する。定例研究会を開催し、各プロジェクトからの成果報告を基に、理論的集約へ向けての討論を行ない、今年 11 月開催予定の「第 2 回 F-GENS シンポジウム」に集約する。統括プロジェクトの活動は、東アジアにおけるジェンダー平等指標の抽出とジェンダー政策の構築、ならびにジェンダー理論の再検討を目的とする。

3-2 若手研究者支援の強化

拠点形成を維持・発展させるために、本プログラムが継承すべきもっとも重要な「資産」は、次世代ジェンダー研究の担い手となるべき若手研究者である。ジェンダー研究は新領域の学問として、着手すべき研究が多く、研究方法も多様である。本プログラムはジェンダー課題群の解明のための研究を学際的なアプローチから展開し、それらの研究活動を通した若手支援に力を入れてきた。しかし、若手研究者への経済的支援が不十分であったことは否めない。このような反省から、今年度は下記のように若手支援事業を推進していく。

＊ PD研究員 2 名を国内外から公募する。
＊ ソウル開催の WW05（第 9 回国際学際的女性会議 = 9th International Interdisciplinary

Congress on Women, Women's Worlds 2005) で報告する若手研究者への参加支援。

＊ 若手プロジェクト「大学におけるハラスメント研究」の設置

＊ 若手研究者代表の事務局会議への陪席

＊ 公募研究と成果の公刊、講習会、若手中心型ワークショップ等研究支援の強化

＊ ジェンダー学際研究専攻の充実

3-3 プロジェクト間の連携強化

11 月開催予定の第 2 回 F-GENS シンポジウムでは統括プロジェクト「ジェンダー研究と〈アジア〉」を中心に、プロジェクト間の連携をいっそう強化して研究統合を図る。各プロジェクト間の交流を図る連携プログラムを強化する。

以上